

4 鳥取県感染症発生動向調査情報（月報）

（鳥取県感染症対策推進協議会情報解析部会）

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和2年2月21日(金)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和2年第1週から第5週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(1週～5週)5週 (R1.12.30～R2.2.2)	前回(48週～52週)5週 (R1.11.25～R1.12.29)	前々回(43週～47週)5週 (R1.10.21～R1.11.24)
1 インフルエンザ (2,643) [↑949]	1 インフルエンザ (1,694)	1 感染性胃腸炎 (471)
2 感染性胃腸炎 (634) [↓47]	2 感染性胃腸炎 (681)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (342)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(420) [↓197]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (617)	3 RSウイルス感染症 (120)
4 伝染性紅斑 (120) [↑4]	4 咽頭結膜熱 (181)	4 咽頭結膜熱 (90)
5 咽頭結膜熱 (43) [↓138]	5 伝染性紅斑 (116)	5 伝染性紅斑 (47)
6 水痘 (30) [↓35]	6 水痘 (65)	6 水痘 (35)
7 その他 (89) [↓50]	7 その他 (139)	6 ヘルパンギーナ (35)
(合計 3,979)	(合計 3,493)	8 その他 (110)
		(合計 1,250)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、3,979件であり、14%(486件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
インフルエンザ	56%	咽頭結膜熱	76%
伝染性紅斑	3%	水痘	54%
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	32%
		感染性胃腸炎	7%

3 コメント

- ・インフルエンザ警報が発令中です。患者報告数は減少傾向を示していますが、注意が必要です。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報が発令中です。引き続き患者報告数は多く、注意が必要です。
- ・伝染性紅斑警報が発令中です。引き続き注意が必要です。
- ・感染性胃腸炎の患者報告数は、引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・梅毒の患者報告数は、引き続き多い状況であり、注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和2年3月13日(金)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和2年第6週から第9週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(6週～9週)4週 (R2.2.3～R2.3.1)	前回(2週～5週)4週 (R2.1.6～R2.2.2)	前々回(50週～1週)4週 (R1.12.9～R2.1.5)
1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (464) [↑ 66]	1 インフルエンザ (1,880)	1 インフルエンザ (2,312)
2 感染性胃腸炎 (446) [↓ 146]	2 感染性胃腸炎 (592)	2 感染性胃腸炎 (460)
3 インフルエンザ (418) [↓ 1,462]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (398)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (427)
4 伝染性紅斑 (81) [↓ 31]	4 伝染性紅斑 (112)	4 咽頭結膜熱 (122)
5 水痘 (32) [↑ 5]	5 咽頭結膜熱 (35)	5 伝染性紅斑 (84)
6 咽頭結膜熱 (21) [↓ 14]	6 水痘 (27)	6 水痘 (40)
7 その他 (68) [↓ 13]	7 その他 (81)	7 その他 (91)
(合計 1,530)	(合計 3,125)	(合計 3,536)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、1,530件であり、51%(1,595件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
水痘	19%	インフルエンザ	78%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	17%	伝染性紅斑	28%
		感染性胃腸炎	25%

3 コメント

- ・インフルエンザ警報は解除されましたが、B型での集団発生も報告されており、引き続き注意が必要です。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報が発令中です。引き続き患者報告数は多く、注意が必要です。
- ・伝染性紅斑警報が発令中です。引き続き注意が必要です。
- ・感染性胃腸炎の患者報告数は、引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・梅毒の患者報告数は、引き続き多い状況であり、注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和2年5月21日(木)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和2年第10週から第13週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(10週～13週)4週 (R2.3.2～R2.3.29)	前回(6週～9週)4週 (R2.2.3～R2.3.1)	前々回(2週～5週)4週 (R2.1.6～R2.2.2)
1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (302) [↓162]	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (464)	1 インフルエンザ (1,880)
2 感染性胃腸炎 (297) [↓149]	2 感染性胃腸炎 (446)	2 感染性胃腸炎 (592)
3 インフルエンザ (75) [↓343]	3 インフルエンザ (418)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (398)
4 伝染性紅斑 (61) [↓20]	4 伝染性紅斑 (81)	4 伝染性紅斑 (112)
5 咽頭結膜熱 (25) [↑4]	5 水痘 (32)	5 咽頭結膜熱 (35)
5 水痘 (25) [↓7]	6 咽頭結膜熱 (21)	6 水痘 (27)
7 その他 (48) [↓20]	7 その他 (68)	7 その他 (81)
(合計 833)	(合計 1,530)	(合計 3,125)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、833件であり、46%(697件)の減となった。

減少した疾病	
インフルエンザ	82%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	35%
感染性胃腸炎	33%
伝染性紅斑	25%
水痘	22%

3 コメント

- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報が発令中です。患者報告数は引き続き多く、注意が必要です。
- ・伝染性紅斑警報は解除されましたが、患者報告数は引き続き多く、注意が必要です。
- ・感染性胃腸炎の患者報告数は、引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・梅毒の患者報告数は、引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染者数が全国で増加し、県内でも3名(4月22日現在)の感染者が確認されており、特に注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和2年6月16日(火)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和2年第14週から第18週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(14週～18週)5週 (R2.3.30～R2.5.3)	前回(9週～13週)5週 (R2.2.24～R2.3.29)	前々回(4週～8週)5週 (R2.1.20～R2.2.23)
1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (331) [↓ 90]	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (421)	1 インフルエンザ (1,206)
2 感染性胃腸炎 (257) [↓ 128]	2 感染性胃腸炎 (385)	2 感染性胃腸炎 (700)
3 水痘 (42) [↑ 3]	3 インフルエンザ (100)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (562)
4 咽頭結膜熱 (39) [↑ 9]	4 伝染性紅斑 (78)	4 伝染性紅斑 (118)
5 伝染性紅斑 (28) [↓ 50]	5 水痘 (39)	5 水痘 (29)
6 インフルエンザ (23) [↓ 77]	6 咽頭結膜熱 (30)	5 突発性発疹 (29)
7 その他 (41) [↓ 21]	7 その他 (62)	7 その他 (101)
(合計 761)	(合計 1,115)	(合計 2,745)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したものの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、761件であり、32%(354件)の減となった。

増加した疾病	減少した疾病
水痘 8%	インフルエンザ 77%
	伝染性紅斑 64%
	感染性胃腸炎 33%
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 21%

3 コメント

- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報は5月8日に解除されましたが、患者報告数は引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・梅毒の患者報告数は、引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染者数は、全国で減少傾向を示しており、本県では4月19日以降新たな感染者は確認されていませんが、引き続き注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和2年7月9日(木)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和2年第19週から第22週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(19週～22週)4週 (R2.5.4～R2.5.31)	前回(15週～18週)4週 (R2.4.6～R2.5.3)	前々回(11週～14週)4週 (R2.3.9～R2.4.5)
1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (161) [↓ 99]	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (260)	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (277)
2 感染性胃腸炎 (147) [↓ 58]	2 感染性胃腸炎 (205)	2 感染性胃腸炎 (235)
3 突発性発疹 (33) [↑ 16]	3 水痘 (31)	3 インフルエンザ (59)
4 咽頭結膜熱 (23) [↓ 7]	4 咽頭結膜熱 (30)	4 伝染性紅斑 (52)
5 水痘 (14) [↓ 17]	5 伝染性紅斑 (20)	5 咽頭結膜熱 (26)
6 伝染性紅斑 (13) [↓ 7]	6 突発性発疹 (17)	5 水痘 (26)
7 その他 (10) [↓ 14]	7 その他 (24)	7 その他 (45)
(合計 401)	(合計 587)	(合計 720)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したものの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、401件であり、32%(186件)の減となった。

減少した疾病	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38%
感染性胃腸炎	28%

3 コメント

- ・梅毒の患者報告数は、引き続き確認されている状況であり、注意が必要です。
- ・新型コロナウイルス感染症は、他県では感染者が引き続き確認されており、注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和2年8月20日(木)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和2年第23週から第26週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(23週～26週)4週 (R2.6.1～R2.6.28)	前回(19週～22週)4週 (R2.5.4～R2.5.31)	前々回(15週～18週)4週 (R2.4.6～R2.5.3)
1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (205) [↑ 44]	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (161)	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (260)
2 感染性胃腸炎 (183) [↑ 36]	2 感染性胃腸炎 (147)	2 感染性胃腸炎 (205)
3 突発性発疹 (46) [↑ 13]	3 突発性発疹 (33)	3 水痘 (31)
4 咽頭結膜熱 (41) [↑ 18]	4 咽頭結膜熱 (23)	4 咽頭結膜熱 (30)
5 水痘 (14) [± 0]	5 水痘 (14)	5 伝染性紅斑 (20)
6 手足口病 (11) [↑ 7]	6 伝染性紅斑 (13)	6 突発性発疹 (17)
7 その他 (23) [↑ 13]	7 その他 (10)	7 その他 (24)
(合計 523)	(合計 401)	(合計 587)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、523件であり、30%(122件)の増となった。

増加した疾病	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	27%
感染性胃腸炎	24%

3 コメント

- ・腸管出血性大腸菌感染症の患者が多く報告されており、注意が必要です。
- ・重症熱性血小板減少症候群が県内で初めて確認されました。また、日本紅斑熱も確認されており、ダニ媒介性感染症の注意が必要です。
- ・新型コロナウイルス感染症は、首都圏等を中心に感染者が増加しており、注意が必要です。
- ・梅毒の患者報告数は、引き続き確認されている状況であり、注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和2年9月9日(水)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和2年第27週から第31週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(27週～31週)5週 (R2.6.29～R2.8.2)	前回(22週～26週)5週 (R2.5.25～R2.6.28)	前々回(17週～21週)5週 (R2.4.20～R2.5.24)
1 感染性胃腸炎 (270) [↑ 32]	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (248)	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (236)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (268) [↑ 20]	2 感染性胃腸炎 (238)	2 感染性胃腸炎 (192)
3 突発性発疹 (49) [↓ 6]	3 突発性発疹 (55)	3 突発性発疹 (35)
4 咽頭結膜熱 (43) [↓ 4]	4 咽頭結膜熱 (47)	4 咽頭結膜熱 (27)
5 水痘 (25) [↑ 8]	5 水痘 (17)	5 水痘 (24)
6 ヘルパンギーナ (18) [↑ 9]	6 伝染性紅斑 (14)	6 伝染性紅斑 (16)
7 その他 (7) [↓ 20]	7 その他 (27)	7 その他 (14)
(合計 680)	(合計 646)	(合計 544)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、680件であり、5%(34件)の増となった。

増加した疾病	
感染性胃腸炎	13%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8%

3 コメント

- ・新型コロナウイルス感染症は、全国的に感染者が確認されており、引き続き注意が必要です。
- ・梅毒の患者報告数は、引き続き確認されている状況であり、注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和2年10月6日(火)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和2年第32週から第35週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(32週～35週)4週 (R2.8.3～R2.8.30)	前回(28週～31週)4週 (R2.7.6～R2.8.2)	前々回(24週～27週)4週 (R2.6.8～R2.7.5)
1 感染性胃腸炎 (148) [↓ 64]	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (219)	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (193)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (124) [↓ 95]	2 感染性胃腸炎 (212)	2 感染性胃腸炎 (191)
3 ヘルパンギーナ (39) [↑ 22]	3 突発性発疹 (39)	3 突発性発疹 (45)
4 突発性発疹 (35) [↓ 4]	4 咽頭結膜熱 (36)	4 咽頭結膜熱 (41)
5 咽頭結膜熱 (24) [↓ 12]	5 水痘 (21)	5 水痘 (14)
6 手足口病 (16) [↑ 13]	6 ヘルパンギーナ (17)	6 その他 (29)
7 その他 (6) [± 0]	7 その他 (6)	(合計 513)
(合計 392)	(合計 550)	

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、392件であり、29%(158件)の減となった。

減少した疾病	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	43%
感染性胃腸炎	30%

3 コメント

- ・重症熱性血小板減少症候群の感染者が、東部地区でも確認されました。これまでに比べ県内での感染リスクが高まっており、注意が必要です。
- ・新型コロナウイルス感染症は、全国的に感染者が確認されており、県内でも感染者が確認されており、引き続き注意が必要です。
- ・ヘルパンギーナの患者報告数が上昇傾向を示しており、注意が必要です。
- ・梅毒の患者報告数は、引き続き確認されている状況であり、注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和2年11月9日(月)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和2年第36週から第39週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(36週～39週)4週 (R2.8.31～R2.9.27)	前回(32週～35週)4週 (R2.8.3～R2.8.30)	前々回(28週～31週)4週 (R2.7.6～R2.8.2)
1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (166) [↑ 42]	1 感染性胃腸炎 (148)	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (219)
2 感染性胃腸炎 (141) [↓ 7]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (124)	2 感染性胃腸炎 (212)
3 ヘルパンギーナ (64) [↑ 25]	3 ヘルパンギーナ (39)	3 突発性発疹 (39)
4 突発性発疹 (29) [↓ 6]	4 突発性発疹 (35)	4 咽頭結膜熱 (36)
5 その他 (22) [↑ 16]	5 咽頭結膜熱 (24)	5 水痘 (21)
(合計 422)	6 手足口病 (16)	6 ヘルパンギーナ (17)
	7 その他 (6)	7 その他 (6)
	(合計 392)	(合計 550)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、422件であり、8%(30件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
ヘルパンギーナ	64%	感染性胃腸炎	5%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	34%		

3 コメント

- ・日本紅斑熱が多く確認されています。ダニ媒介感染症が多く確認されるシーズンであり、注意が必要です。
- ・新型コロナウイルス感染症は、全国的に感染者が確認されており、本県でも感染者が確認されており引き続き注意が必要です。
- ・梅毒の患者報告数は、引き続き確認されている状況であり、注意が必要です。
- ・ヘルパンギーナは、患者報告数が多く注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和2年11月26日(木)

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和2年第40週から第44週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(40週～44週)5週 (R2.9.28～R2.11.1)	前回(35週～39週)5週 (R2.8.24～R2.9.27)	前々回(30週～34週)5週 (R2.7.20～R2.8.23)
1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (264) [↑ 65]	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (199)	1 感染性胃腸炎 (211)
2 感染性胃腸炎 (152) [↓ 26]	2 感染性胃腸炎 (178)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (186)
3 ヘルパンギーナ (76) [↓ 2]	3 ヘルパンギーナ (78)	3 突発性発疹 (44)
4 突発性発疹 (38) [↓ 5]	4 突発性発疹 (43)	4 咽頭結膜熱 (39)
5 手足口病 (31) [↑ 19]	5 その他 (32)	5 ヘルパンギーナ (36)
6 その他 (36) [↑ 4]	(合計 530)	6 その他 (27)
(合計 597)		(合計 543)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は597件であり、13%(67件)の増となった。

増加した疾病	減少した疾病
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 33%	感染性胃腸炎 15%
	ヘルパンギーナ 3%

3 コメント

- ・日本紅斑熱が例年になくやや多く確認されており、注意が必要です。
- ・新型コロナウイルス感染症は、引き続き全国的に感染者が多く確認されており、本県でも感染者が確認されており引き続き注意が必要です。
- ・梅毒の患者報告数は、散発的に引き続き確認されている状況であり、注意が必要です。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告数が上昇傾向を示しています。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和3年1月13日(水)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和2年第45週から第48週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(45週～48週)4週 (R2.11.2～R2.11.29)	前回(41週～44週)4週 (R2.10.5～R2.11.1)	前々回(37週～40週)4週 (R2.9.7～R2.10.4)
1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (188) [↓ 47]	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (235)	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (163)
2 感染性胃腸炎 (108) [↓ 12]	2 感染性胃腸炎 (120)	2 感染性胃腸炎 (136)
3 ヘルパンギーナ (53) [↓ 10]	3 ヘルパンギーナ (63)	3 ヘルパンギーナ (54)
4 突発性発疹 (34) [↑ 5]	4 突発性発疹 (29)	4 突発性発疹 (33)
5 水痘 (26) [↑ 15]	5 手足口病 (21)	5 その他 (35)
6 その他 (41) [↑ 11]	6 その他 (30)	(合計 421)
(合計 450)	(合計 498)	

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は450件であり、10%(48件)の減となった。

増加した疾病	減少した疾病
水痘 136%	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 20%
	ヘルパンギーナ 16%
	感染性胃腸炎 10%

3 コメント

- ・新型コロナウイルス感染症は、引き続き全国的に感染者が多く確認されており、本県でも感染者がこれまでに最も多く確認されており、警戒が必要です。
- ・梅毒の患者報告数は、引き続き確認されている状況であり、注意が必要です。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告数は例年に比べ少ないですが、引き続き確認されている状況であり、注意が必要です。
- ・ヘルパンギーナは、東部地区を中心に引き続き患者が確認されています。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和3年2月12日(金)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和2年第49週から第53週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(49週～53週)5週 (R2.11.30～R3.1.3)	前回(44週～48週)5週 (R2.10.26～R2.11.29)	前々回(39週～43週)5週 (R2.9.21～R2.10.25)
1 A群溶血性連鎖球菌咽頭炎 (245) [↑ 1]	1 A群溶血性連鎖球菌咽頭炎 (244)	1 A群溶血性連鎖球菌咽頭炎 (251)
2 感染性胃腸炎 (138) [↓ 5]	2 感染性胃腸炎 (143)	2 感染性胃腸炎 (147)
3 突発性発疹 (34) [↓ 8]	3 ヘルパンギーナ (64)	3 ヘルパンギーナ (70)
4 手足口病 (25) [↑ 7]	4 突発性発疹 (42)	4 突発性発疹 (38)
5 水痘 (22) [↓ 9]	5 水痘 (31)	5 手足口病 (30)
6 その他 (41) [↓ 7]	6 その他 (48)	6 その他 (30)
(合計 505)	(合計 572)	(合計 566)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は505件であり、12%(67件)の減となった。

減少した疾病	
ヘルパンギーナ	72%
感染性胃腸炎	3%

3 コメント

- ・新型コロナウイルス感染症は、県内においても相次いでクラスターが発生しており、令和2年中では最も多い感染者数が確認されています。引き続き厳重な警戒が必要です。
- ・梅毒の患者報告数は、引き続き確認されており、過去10年間で最も多い患者数であり、引き続き注意が必要です。
- ・インフルエンザの患者報告数は1件のみであり、流行の兆しは認められません。
- ・ほとんどのウイルスによる感染症は例年と比較すると患者報告数は少ないですが、突発性発疹は例年と同様の患者報告数が確認されています。